

## 5月田植えと1株3~4本植えで良質茎を!!

### 【田植え・初期管理のポイント】

※コシヒカリの田植えは5月に入ってから! 風の強い日は植傷みするので田植えは控えよう

- ① 植え付け株数...60株/坪 (高地力田・倒伏田では50株/坪)
- ② 植え付け本数...3~4本/1株 (1~2本植えでも補植はしない)
- ③ 植え付け深さ...2cm程度 (深植えは分けつの発生が遅れます!)
- ④ 田植え後はすみやかに入水!! 活着までは5~10cm程度の深水管理で植傷みを防ぐ
- ⑤ 活着したら2~3cmの浅水管理(低温・強風時は深水)で、地温を上げ、稲を元気にしよう。
- ⑥ 水を入れるのは早朝か夕方。 昼間は水温を上昇させましょう。
- ⑦ 5月中下旬の温暖な日に水を落とし、軽い田干し(ガス抜き)を2~3回繰り返しましょう。

### 【除草剤の使用方法】

#### 一発処理

除草剤散布後7日間は落水・かけ流しはしない

田植後日数	0	5	10	15	20	25
代	田	ベンケイ1キロ粒剤(1kg/10a)				雑草が多い圃場の一発処理
か	植	ガンガン1キロ粒剤(1kg/10a)				ノビエ3.0葉期まで
き	え	シリウスエグザ1キロ粒剤(1kg/10a)				ノビエ2.5葉期まで

#### 省力除草方法

田植後日数	0	3	5	10	12	15	20	25
代	田	バッチリジャンボ(400g/10a)				ノビエ2.5葉期まで		
か	植	シリウスエグザ顆粒(80g/10a)				ノビエ2.5葉期まで		
き	え	【バッチリジャンボ】・深水で散布する。 ・藻や表層はく離の発生している圃場では使用しない 【シリウスエグザ顆粒】・水口より散布する流し込みタイプ ・散布時は水深を3cmほど確保し散布し、水深が2cm以上アップしたら、散布完了。						

#### 一般的な体系処理

田植後日数	0	5	10	15	20	25
代	田	マーシット1キロ粒剤(1kg/10a)	バッチリLX1キロ粒剤(1kg/10a)		ノビエ2.5葉期まで	
か	植	または	シリウスエグザ1キロ粒剤(1kg/10a)		ノビエ2.5葉期まで	
き	え	クラー1キロ粒剤(1kg/10a)	エンペラー1キロ粒剤(1kg/10a)		ノビエ3葉期まで	
		田植え直後~5日に散布 ノビエ発生始期まで				

#### 【散布方法】

- ① 田植え前の初期剤散布はしないで下さい。
- ② 藻類・表層はく離の発生前に散布する。
- ③ フロアブル剤・豆つぶ剤は手散布で行う。  
(幅30m以下のほ場では畦畔からのみの散布可能)
- ④ フロアブル剤・豆つぶ剤は水深5cm・藻類の発生前に散布する。
- ⑤ マットSM1キロ粒剤を使用する場合は、夕方に散布を行う。
- ⑥ 前年と異なる品種を作付けするほ場では、漏生対策として初期剤(マーシット1キロ粒剤・メオフロアブル)を散布する。

#### 【田植同時散布の注意点】

- ① 代かきは丁寧に。田面を均平に。
- ② ひたひたの湛水条件で田植えする。
- ③ 補植は行わない。
- ④ 強風の際は田植えを控える。  
(葉害の恐れあり)
- ⑤ 薬剤散布後は効果を高めるため、すみやかに入水する。

**除草剤は水が命! 散布後1週間は水を切らさずに!**

くわしいことは、営農指導員にお尋ねください。

倉庫でのネズミ防除のポイントは清掃の徹底!(駆除剤は絶対に使用しない)

生産履歴とGAPを的確に記帳しましょう!

浅水で代かきし、田植え前に濁り水を排水しないようにしましょう!

レブラス粒剤

ヒエクリン粒剤

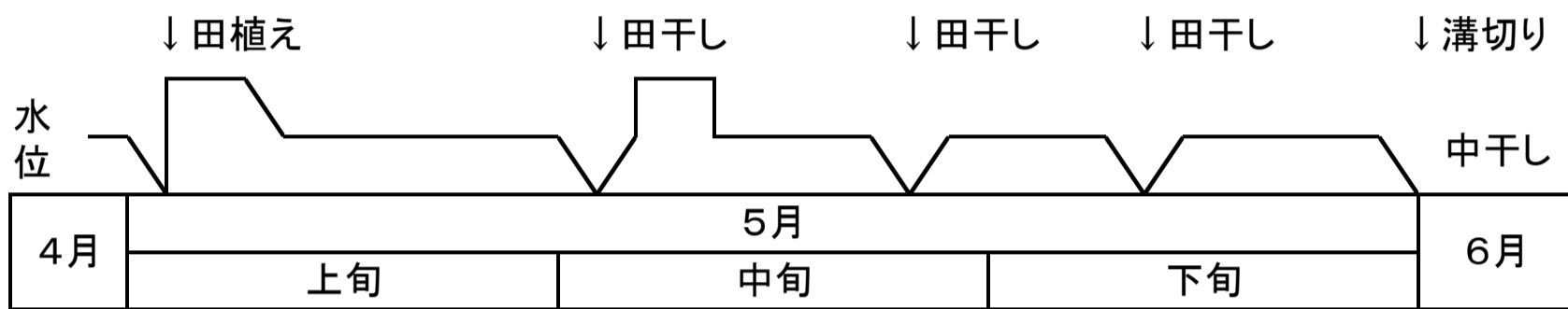
クリンチャー粒剤

# 適切な初期管理は良質米への第一歩！！

## 【田植え後の水管理】

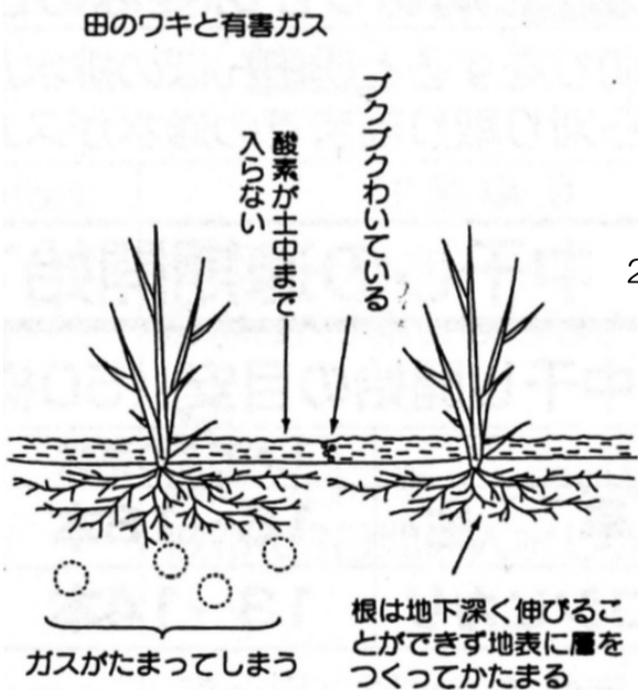
田植え後の水管理は、稲のその後の生育に大きく影響します。  
適切な管理により、初期生育の確保・健全な稲体の育成に努めましょう！

- 田植え後3～5日 深水管理(5～10cm程度)
- 除草剤散布時は十分に水を入れる
- 日中は浅水管理(2～3cm)で、地温の上昇を図る

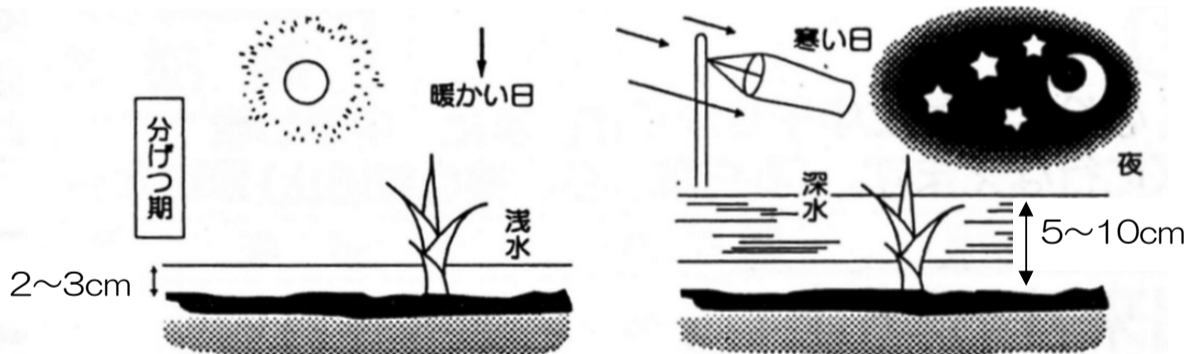


- ① 田植え後、低温・強風時は、苗が水没しない程度の深水とし、苗を保護する。
- ② 活着後は日中2～3cmの浅水管理を行い、朝に短時間の入水を励行し、田の水温・地温が上がるように努める。
- ③ 中干しまでに田干しを2～3回行い、ガス抜きをし、根の張りを良くする。  
※ 田植え後、低温が続く場合でも、出来るだけ暖かい日を選び、水の入れ替えを行う。
- ④ 6月初めには、「中干し」や「間断通水」をしやすくするため、溝切りを必ず実施する。

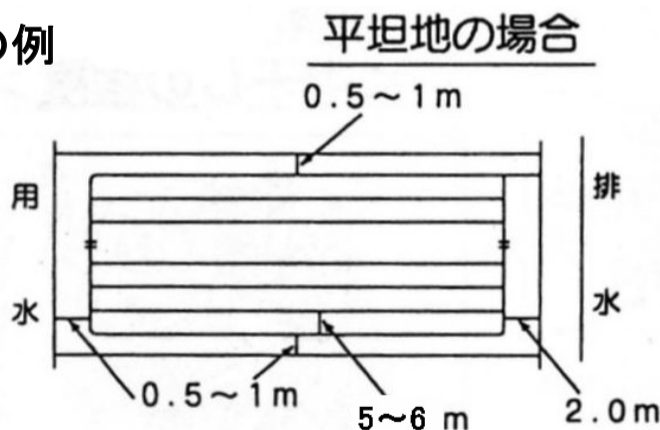
### ガスの発生



### 天候に応じた水管理の実施



### 溝切りの例



### ※ガス抜きについて

- 有機物を施用した圃場や湿田では5月中旬以降、地温の上昇にともない有機物の分解が進み、ガスが発生しやすくなり、根腐れの原因となります。ガスが発生している圃場では、晴天時に田干しを実施し、ガス抜きをする必要があります。
- 特に、除草剤(特に中期剤)の散布前には必ずガス抜きを実施してください。

**中干しは、田植え一ヶ月後を目安に開始しましょう！**

くわしいことは、営農指導員にお尋ねください。

生産履歴とGAPを的確に記帳しましょう！

補植苗の放置は葉いもちの発生源となりますので、早急に処分しましょう！